

子ども読書支援センターニュース No.162

2017. 11. 30

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817 <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成29年12月5日（火）11：00～11：20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《11月のおはなし会で使った本》

『がたんごとんがたんごとん』 安西水丸/さく 福音館書店 1987

『わたしのワンピース』 にしまきかやこ/えとぶん こぐま社 1969

『みんなでたいそう』 新沢としひこ/脚本 長谷川義史/絵 童心社 2004

『おにぎり』 平山英三/ぶん 平山和子/え 福音館書店 1992

★第3回新刊児童書閲覧会

○日時：平成29年12月17日（日）13：30～15：30

○場所：山口県立山口図書館 第2研修室 ○対象：公共図書館職員、学校図書館関係者、ボランティア等

○定員：30名（要申込み・先着順） ○申込方法：平成29年12月15日（金）までに、電話、FAX、Eメールで申込み

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817 Eメール：a50401@pref.yamaguchi.lg.jp）

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本-乳幼児から>

『いっこさんこ』 及川賢治・竹内繭子/作 文楽堂 2017.9 ¥860

「いっこ」のかぼちゃがページをめくると「さんこ」のかぼちゃになりました。「いっこ」の鳥の巣が「さんこ」の鳥の巣になり、「さんこ」の風船が「いっこ」の風船になって…。夫婦コンビ・100%ORANGEが描く色鮮やかな絵と、「いっこさんこいっこさんこ」の繰り返しによる言葉のリズムが楽しい赤ちゃん絵本。『まるさんかくぞう』に続く第二弾。

<絵本-3, 4歳から>

『ぼちっとあかいおともだち』 コーリン・アーヴェリス/文 フィオーナ・ウッドコック/絵 福本友美子/訳 少年写真新聞社 2017.8 ¥1600

ホッキョクグマのミキは、遊ぶのが大好き。ママに魚取りを教わっていても、こっそり逃げ出し雪の中へ。ひとりで氷の上を駆け出すと、雪の中にぼちっと赤いものが。近づいてみると、赤いものは前足を振っていた。いっしょに遊びたいのかな…。子グマの小さな冒険と人間との出会い、そして母親に温かく迎えられるというストーリーは、幼い子どもへの読み聞かせに向く。

<絵本-5, 6歳から>

『なきたろう』 松野正子/作・文 赤羽末吉/絵 復刊ドットコム 2017.8 ¥1850

たろうはとんでもない泣き虫だ。たろうの泣き声で、村の鶏や牛はおびえ、たろうの涙で村の稲も枯れてしまった。強くなるために山に修行に出かけたたろうは、山の泉に住む小人たちに出会う。小人たちを涙で押し流さないように、たろうは生まれて初めて泣くことをこらえ…。たろうの優しさと成長を、民謡調の語り口で綴った創作絵本。文研出版（1974年刊）の復刊。

『オニのサラリーマン しゅっちゃんのはつらいよ』 富安陽子/文 大島妙子/絵 福音館書店 2017.10 ¥1400

赤鬼のオニガワラ・ケン、じごくカンパニーのサラリーマン。えんまさまから出雲出張を命じられ、同僚のオニジマとともに、年に一度の神ついで「ぜんこく神さまサミット」の会場警備に向かう。まずは出雲の玄関口の稲佐の浜で、神様たちをお出迎え。えんまさま、ボーナスどうぞよろしゅうに。テンポの良いセリフと細かく描き込まれた絵が楽しい。『オニのサラリーマン』の続編。

<絵本-小学校低学年から>

『もしきみが月だったら』 ローラ・パーディ・サラス/文 ジェイミー・キム/絵 木坂涼/訳 光村教育図書 2017.8 ¥1400

もしきみが月だったら、きみは毎日休まず地球の周りをまわるんだよ。バレリーナみたいに回ったり、地球がバランスをとるのを手伝ったり、海と毎日綱引きをしたり…。お月さま自身が、月の動きや特徴、地球との関わりなどを、子どもに身近な表現でわかりやすく語る。各ページの科学的な説明や、美しく温かみのある絵も子どもの理解を助ける。月への興味を深める科学絵本。

『あおいジャッカル』 マーシャ・ブラウン/作 こみやゆう/訳 瑞雲舎 2017.10 ¥1300

町に出かけたジャッカルは、野良犬に追い回され、染物屋の藍の大きめに飛び込んだ。翌朝、真っ青に染まったジャッカルを見た森の動物達は、彼を森の王様にした。贅沢な暮らしが続いたが、仲間のジャッカルの遠吠えを聞いて…。世界最古の寓話集と言われるインドの『パンチャタントラ』の一話を再話した『あおいやまいぬ』（瀬田貞二訳 瑞雲舎 1999年刊）の改題、新訳。

<絵本-小学校高学年から>

『クリスマス・キャロル』 チャールズ・ディケンズ/原作 ブレット・ヘルキスト/絵 三辺律子/訳 光村教育図書 2017.10 ¥1500

一年の中で一番素敵なクリスマス・イブに、頑固な老人スクルージは事務所で仕事をしていて、おれのフレッドがやってきて「明日のクリスマスと一緒に過ごしませんか」と誘ってくれたが、スクルージはこべもなく断った。ところがその夜、スクルージの前に、過去、現在、未来の3人のクリスマスの幽霊が現れ…。クリスマスの名作物語の絵本化。

<読み物—小学校低学年から>

『サンタちゃん』 ひこ・田中/作 小原かずの/絵 講談社 2017.10 ¥1300

アルミはサンタさんに憧れる少女。「サンタさんが好きなんじゃないって、あたしがサンタさんになりたいの」とサンタさんちに押しかけて、サンタさんになるための訓練を始めた。体力づくりにトナカイの扱い、プレゼントの置き方などの厳しい修行をこなし、めでたく合格、「サンタちゃん」になれた。強がってばかりのアルミと、穏やかなサンタさんのかけあいに、心温まる作品。

<読み物—小学校中学年から>

『クリスマスがちかづく』 齊藤倫/作 くりはらたかし/画 福音館書店 2017.10 ¥1300

毎年クリスマスが近づくとお父さんは留守がちになるのを、いつも寂しく思っていた少年セロ。理由をお母さんに問いつめると、なんとお父さんはサンタクロースだという。確かに、ガレージの奥にそりが隠してあったり、すすで真っ黒になって帰ってきたり。今年はサンタさんにならない約束をしてもらい安心したセロだったが…。クリスマスの意味を考えることができる1冊。

<読み物—小学校高学年から>

『青空トランペット』 吉野万理子/作 宮尾和孝/絵 学研プラス 2017.10 ¥1400

小6の広記はお父さんの影響で横浜ベイスターズの大ファン。月2回のペースで横浜球場へ応援に出かけている。ある日、いつも一緒に球場へ応援に行っていた仲間の健太郎が応援をやめると言う。「応援する人でなく、応援される人になりたい」と。応援する人ではダメなのか…。三浦大輔投手引退の2016年横浜ベイスターズと交錯する熱い応援ストーリー。

『いらないねこ』 ヒグチュウコ/絵と文 白泉社 2017.9 ¥1400

ぬいぐるみのニャンコは今にも死にそうな捨て猫の赤ちゃんを拾って育てることに。目やにで開かない目を心配して病院へ連れて行ったりお散歩に連れて行ったりと、愛情たっぷりにお父さんぶりを発揮していたが、ある日突然の別れがおとずれる。拾われた猫はいらない猫だったのか…。『せかいのねこ』の続編。『MOE』掲載をもとに単行本化。

<読み物—中学生から>

『君が夏を走らせる』 瀬尾まいこ/著 新潮社 2017.7 ¥1500

小学校時代から不良少年の俺が、夏休みの1ヶ月、先輩の子どもの面倒を見る羽目に。悶々とした高校生活を送っていた16歳の少年が、言葉も理解できない1歳児と格闘の日々を送る。全身で要求を伝えてくる幼児を理解しようとする中で、自分や周囲の人々を見つめ直し、思春期を乗り越えていく、不良少年のちょっとコミカルな成長物語。『小説新潮』連載を改題。

『オオカミを森へ』 キャサリン・ランデル/作 ジェルレヴ・オンビーコ/画 原田勝/訳 小峰書店 2017.9 ¥1700

ロシアの森深く、母と2人きりで狼の世話をする12歳の少女フェオ。ある日、狼を保護した罪で、母が残忍なラーコフ将軍に連れ去られる。フェオは狼を連れ、元兵士の少年と共に母を取り戻すべく、サンクトペテルブルクを目指す。孤独だった少女が仲間を得、知恵を絞り、子どもたちの力を合わせて牢獄を襲撃する冒険物語。「Sunmyside Books」シリーズ。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『落ち葉のふしぎ博物館 ゲッチョ先生の落ち葉コレクション』 盛口満/文・絵 少年写真新聞社 2017.8 ¥1800

落ち葉の見かけはいろいろ。一本の同じ木の落ち葉でも、大きさも形も色づきも違っている様子を、カラーのイラストで紹介。街や公園、里山、照葉樹林など、観察場所別にも掲載。また、落ち葉に集まる小さな土壌動物やドングリ、葉の落ちた枝や冬芽等についても解説。著者は、大学教授でありイラストレーターでもある通称「ゲッチョ先生」。

『地震がおきたら』 谷敏行/原案 畑中弘子/文 かなざわまゆこ/絵 BL出版 2017.10 ¥1200

地震が起きたら、どうしよう。もし、一人でいるときだったら？消防士さんは助けてくれる？お母さんが遭遇した阪神淡路大震災の体験をもとに、大声で助けを呼ぶこと、津波を警戒し高く遠くへ逃げることを教える。自分で自分の体を守ることの大切さを、子どもたちにわかりやすく伝えたいという、神戸市消防局職員の思いから生まれた防災絵本。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『みんなで道トーク! ①学校編』 藤川大祐/監修 田中六大/マンガ 河出書房新社 2017.9 ¥2800

友だちとの関係、グループ行動、将来の夢、不得意なことや好きな人のこと…。学校の中で起こる、もやもやするできごとを取り上げ、「こんな時、きみならどうする？」と問いかける。5つのストーリーマンガとポイントの整理、やさしい解説で構成。新学習指導要領で教科となる「考え、議論する道徳」が楽しくなる全3巻。他に②家庭編③まち編。

『わくわく!探検れきはく日本の歴史 近世』 国立歴史民俗博物館/編 吉川弘文館 2017.10 ¥1000

江戸城はどんな城?町の人がどのくらして?寺子屋はどこかなど?1983年に千葉県佐倉市にオープンした国立歴史民俗博物館(れきはく)の展示物や資料を使った「紙上博物館」。小中学生に向けて日本の歴史と文化をやさしく解説。展示をもとにしたストーリー性重視の構成で、ジオラマや復元模型などの図版も満載。原始・古代、中世、近代・現代、民俗の全5巻。

<ノンフィクション—中学生から>

『大人になったらしたい仕事 「好き」を仕事にした35人の先輩たち』 朝日中高生新聞編集部/[編] 朝日学生新聞社 2017.9 ¥1500

子どものころの「好き」を仕事に結びつけた35人のインタビューを紹介。ペンタブレットの開発者、アウトドアガイド、総合商社の人事担当、テーマパークのイベント企画、国連職員など活躍中の若手を中心に、見開き2ページで、仕事の様子や一日の流れ、個人のあゆみを写真とともに紹介。「朝日中学生ウィークリー」「朝日中高生新聞」連載から選んだ35本をまとめる。

<研究書>

『保育・子育て絵本の住所録 テーマ別絵本リスト』 舟橋齊・富田克巳/編著 三学出版 2017.9 ¥1850

絵本の力で保育の魅力を高めるための考え方や、保育で絵本を読むことの意味、絵本の選び方や年齢別クラスによる実践例を紹介。テーマ別絵本リストの発案者による、保育・子育てに限定した4000冊以上のテーマ別絵本リストは、季節・行事と、保育活動と生活に大きく分け、特に重要と思う本はゴシックで表示している。左右両開きの本。